

外来植物 ヒガタアシ (スパルティナ・アルテルニフロラ) の 情報提供にご協力ください

2011年4月、豊橋市の梅田川河口部付近において、国内で初めてヒガタアシ(学名：スパルティナ・アルテルニフロラ)が発見され、また、続いて同年10月には半田市においても発見されました。

ヒガタアシは繁殖力が非常に強く、分布を拡大し干潟に侵入すると、県内の自然環境に非常に大きな悪影響を与えるおそれがあります。

県としては、この2箇所ですぐに刈り取り等の駆除を実施しましたが、侵入経路が不明であり、他の場所にも侵入している可能性があります。

つきましては、河口や海岸においてそれらしき植物を発見された際には、以下の連絡先まで連絡をお願いします。(メールの場合は、画像の添付は2.5MB以下をお願いします。)

ヒガタアシとは

- 南北アメリカ原産のイネ科の汽水性多年生草本。最大で2.5m程度の高さになり、海岸近くの河口域、干潟、入江などに群落を形成する。
- 繁殖力が非常に強く、種子による繁殖の他、地下茎による増殖により毎年1m以上分布拡大する。
- 分布を拡大すると、在来植生・生物を駆逐する他、干潟を草原化させ、それに伴う水鳥や底生生物などへの著しい悪影響が想定される。
- 日本ではこれまで輸入・利用された記録はないが、他国では干潟を陸地化するため利用されている事例がある。
- 近縁種のスパルティナ・アングリカは外来生物法により特定外来生物に指定されているが、本種も同等以上の影響力があると考えられている。

(ヒガタアシ発見のポイントを参照してください。)



豊橋市梅田川河口部における群落 (H23.8)

連絡先

愛知県環境部自然環境課

野生生物グループ

TEL：052-954-6230

FAX：052-963-3526

メール：shizen@pref.aichi.lg.jp

ヒガタアシ発見のポイント

- 河口部や干潟などの、満潮時に海水をかぶるような場所、ヨシよりも海側に丸いパッチ状の群落を作る。
- これまで何も生えていなかった河口部などに、急速に群落ができている。
- 冬季にヨシは枯れて茶色くなるが、ヒガタアシは緑色を保っている。
- ヨシは葉の幅が笹の葉のように広いが、ヒガタアシの葉はススキの葉のように細い。



左：ヒガタアシの葉
右：在来種のヨシ
(ヨシは平凡社：日本の野生植物より)